



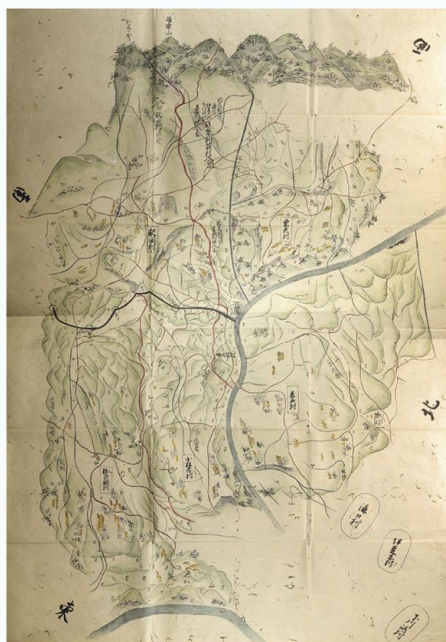
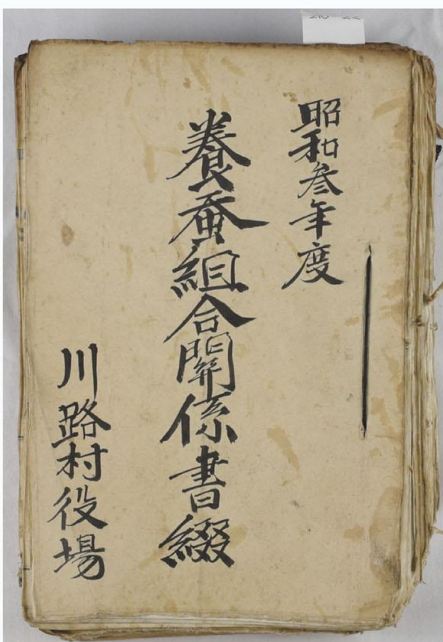
## 飯田市歴史研究所と旧支所<sup>もんじょ</sup>文書調査

現在の飯田市は、昭和31年以降に近隣の町村が編入合併して出来上がっています。旧町村時代の行政文書は、多くが旧町村単位に設置されている各自治振興センター（旧支所）で継承・管理されています。そのような各センター所蔵の行政文書（「旧支所文書」と以後呼びます）の実態を把握し、保存状況を改善することは、飯田市歴史研究所の創設以来の重要な課題の一つでありました。前身にあたる市誌編さん室時代に行われた調査成果を継承したものに加え、歴史研究所時代に新たに旧支所文書の調査も積極的に実施しました。調査方法も、大学のゼミナールなど共同して調査を実施したもの（南信濃・山本etc.）、文化庁の補助金を活用して実施したもの（川路etc.）、地元の歴史団体と協働して実施したもの（座光寺）など多様です。昨年は、龍江自治振興センターに所蔵されている文書の第1次調査を実施、さらに今年度の秋には第2次調査を計画しています。これが完了すると、歴史研究所は自治振興センターが所蔵する旧支所文書について、調査し目録を整備できます。これは、市誌編さん室の時代、そして歴史研究所創設以降、多数の方が尽力してくださったことでもたらされた貴重な成果であり、飯田市全体にとっても重要な財産になると思います。

調査が完了したとはいえ、今後も課題は多いと考えています。まず、各センターの職員も含む地元の方々へ成果を還元していくことです。旧支所文書は、その地域にかつて暮らした人々の姿を示す地域共有の財産です。それを広く認識していただくことが重要になると思います。現在は特に川路地区などでは成果還元のために講座などを定期的で開催していますが、それをさらに広げていけないか今後検討していく必要があるでしょう。次に、継続的な資料の保全です。現在、調査終了後の資料保管は、各センターにゆだねられる部分が多くなっています。歴史研究所として、調査終了後も継続的に保全に取り組んでいくことが課題です。

国家レベルで、公文書管理の重要性が叫ばれています。その背景には、出来事を正確に記録し、文書として保存継承することが、民主主義を支える基本になるという認識があります。旧支所文書は、飯田・下伊那の歴史研究にとって重要なものもちろんですが、この地域の将来にとっても大切な意味を持ちます。今後も、歴史研究所として少しでも適切にその保存に携われるよう努力できればと思います。

（研究員 太田仙一）



戦前の養蚕業の様子がわかる資料

村や山の境界が記入されている絵図

現在最も研究や講座などへの使用が進んでいる川路自治振興センターに所蔵されている資料です。江戸時代の絵図や近代の文書など多様な資料が数多く残されています。

# 飯田市歴史研究所2020年度研究計画

## 1. 共同研究

|      |   |             |      |
|------|---|-------------|------|
| 基盤調査 | A | 史料所在状況調査    | 羽田真也 |
|      | B | 史料現状記録調査    | 羽田真也 |
|      | C | オーラルヒストリー調査 | 田中雅孝 |
|      | D | 歴史的建造物調査    | 福村任生 |
|      | E | 歴史的公文書調査    | 太田仙一 |
|      | F | 在外史料調査      | 吉田伸之 |

|       |   |        |              |
|-------|---|--------|--------------|
| 単地域研究 | A | 飯田・上飯田 | 多和田雅保        |
|       | B | 座光寺    | 羽田真也<br>福村任生 |
|       | C | 川路     | 羽田真也<br>福村任生 |
|       | D | 鼎      | 太田仙一         |

|      |   |                                  |        |
|------|---|----------------------------------|--------|
| 課題研究 | A | 小学校区を単位とする地域社会の文化構築に関する歴史的研究     | 多和田真理子 |
|      | B | 山里の分節的把握—阿智村清内路を素材として            | 吉田伸之   |
|      | C | 南信濃山里社会の文化的景観とその歴史的形成過程に関する基盤的研究 | 吉田ゆり子  |

## 2. 基礎研究

|       |            |  |
|-------|------------|--|
| 顧問研究員 | 吉田伸之       | 「小規模伝統都市・飯田の社会=空間構造」4  |
|       | 大串潤児       | 「村と戦争」の総合的研究   |
|       | 加藤陽子       | 森本州平日記を読む  |
|       | 田嶋一        | 飯田・下伊那の教育・人間形成についての教育社会史的研究  |
|       | 多和田雅保      | 近世・近代の飯田町を中心とするネットワークの研究   |
|       | 吉田ゆり子      | 下伊那地域における身分的周縁に関する研究   |
| 研究員   | 羽田真也       | 近世信州伊那地域における村社会の構造—座光寺村を素材として—<br>近世の天竜川河原をめぐる社会秩序—下川路・時又・今田を対象として—  |
|       | 太田仙一       | 近現代長野県下伊那地域を対象とする経済・経営史的分析   |
|       | 福村任生       | 明治大正期の地籍史料群を用いた歴史的景観の研究  |
|       | 原英章        | 満蒙開拓青少年義勇軍の送出についての史的研究—学校教育や役場等現場の関わりを中心に—<br>戦争末期における飯田下伊那の動き—川路への豊川海軍工廠の疎開、農兵隊等—<br>飯田市平和祈念館資料室 所蔵資料の歴史的調査 |
| 田中雅孝  | 養蚕地帯の構造と主体 |  |

|       |        |  |
|-------|--------|--|
| 調査研究員 | 齊藤俊江   | 下伊那地域の満州移民研究<br>飯田遊廓の歴史                            |
|       | 竹ノ内雅人  | 飯田下伊那地域の寺社と地域社会に関する基礎的研究                           |
|       | 多和田真理子 | 小学校の設置運営と地域の関わり—日誌類の分析を中心に—                        |
|       | 千葉拓真   | 近世の飯田・下伊那における領主間ネットワークと地域社会の総合的研究                  |
|       | 樋口貴彦   | 山村の木材利用の手法に関する研究                                   |
|       | 前澤健    | 脇坂飯田藩の検地と榎木米                                       |
|       | 本島和人   | 下伊那郡町村長会による満洲農業移住地視察の再検討<br>青少年義勇軍送出と郡市教育会の対応の比較検討 |
|       | 安岡健一   | 飯田・下伊那における社会教育の歴史的研究4                              |
|       | 栗谷真寿美  | 農業青年、楯操の歩み—自由大学から、江渡狄嶺、ヤマギシズムへ—                    |
|       | 上河内陽子  | 川路村の兵士・満州移民の軍事郵便から探る、村からの期待                        |
| 市民研究員 | 清水迪夫   | 歌誌『夕樺』と下伊那青年運動                                     |
|       | 林武史    | 飯田の街角の文字デザインと歴史を見つめる                               |

## 第5期中期計画の策定作業を進めています

歴史研究所は、2003年の設立以来、4年もしくは5年間の中期計画に則って、研究・調査事業、教育・普及活動、研究者養成、市誌編さん・出版事業などを進めてきました。今年度は、2017年度から始まった第4期中期計画の最終年度です。この第4期でも、地域アーカイブズ事業の拠点化、地域遺産の再発見、地域市民との連携強化、地域史研究・地域遺産保全を通じた交流の促進の4つを重点目標に掲げ、『飯田・下伊那の歴史と景観』の刊行など、さまざまな事業を行ってきました。現在、第4期中期計画実績の点検・評価、および第5期中期計画(2021～2024年度)の策定作業に取り組んでいるところです。

新しい中期計画に、市民のみならず、研究者のみならずのご意見を、いただきたいと考えています。歴史研究所に対する思いや提案など、忌憚のないご意見をお寄せください。

なお、第4期中期計画書は、飯田市ホームページ「飯田市歴史研究所 第4期中期計画」からご覧いただけます。  
(歴史研究所メールアドレスはihr@city.iida.nagano.jpです)

## 歴史研究所設立の思い出

古井 武志

市制施行70周年記念事業として市誌編さんに取り組んだのは平成8年(1996)。所管は教育委員会で、市立図書館内に「市誌編さん準備室」を設置したのがスタートだと記憶している。編さん委員会を設け平成9年4月「市誌編さん室」を設置。専任の職員を置き、教員OBの石川正臣先生(故人)を中心に具体的な取り組みが始まったが、様々な事情により方針が大きく変わることになった。この間の状況については、関係された多くの方々に並々ならぬご心配やご迷惑をおかけしたことを覚えている。私自身も東京大学の吉田伸之先生をお訪ねして貴重なお話を伺い、それぞれ「目から鱗が落ちる」思いをしたことが忘れられない。その後、関係者の皆さんには度重なるご熱心な議論を頂き、市としては当時の田中秀典市長(故人)を中心に教育委員会と共に慎重に熟議を重ねたうえで大きな決断をしたわけである。考えてみれば、吉田先生のお話に心を動かされたということがその後の取り組みに結び付いていくことになったと思っている。

平成15年(2003)12月「飯田市歴史研究所」が設置され、吉田先生に研究部長(平成24年(2012)4月より研究所長)としてご就任いただき具体的な研究が始められた。住民が安心して、幸せ感をもって毎日を過ごすことができるような地域にする為に自治体やそこに働く職員に課せられた責務は重い。この地域が過去から現在までどんな経過をたどってきたのか、その中で先人たちがどんな苦労をされてきたのかを知ることは今を生きる我々にとって極めて重要なことである。つまり歴史から学ぶことが如何に大切なものであるかということだ。こんな田舎の小さな地方都市がおそれもなく「歴史研究所」なんていうものを作って取り組めるだろうかと思わないでもなかったが、都市の文化度を上げることに繋がればと考えれば意義あることだと振り返っている。お陰様で多くの皆さんのご努力で大きな成果が上がっていることに心から敬意を表し、今後の益々の充実、発展を期待している。

(ふるい たけし 元飯田市助役)

### 明治初期の川路の地引絵図 一史料紹介一

川路自治振興センターの倉庫に保管されている旧川路村役場文書の目録整理作業は2年前に一度完了していますが、じつは絵図史料数点については最近まで未調査のまま残されていました。この絵図史料のなかには景観研究における基礎資料である明治初期の「地引絵図」と推定されるものが存在します(下図)。

この「地引絵図」とはいかなる史料なのか、詳しい説明は省略しますが、興味のある方は歴史研究所が編集・刊行した『描かれた上飯田—明治初期の地引絵図をよむ』(2014年)をご覧ください。同書の解題にあるとおり「地引絵図」とは略称であり、上飯田村のものについては、「信濃国伊那郡上飯田村田畑山林地引絵図」が正確な名称です。上飯田村の地引絵図は東京の古書店で発見されましたが、本来は明治4年の壬申地券発行後、明治6～8年ごろに郡内各村で作成された「地引帳」(簿冊史料)と対となる行政絵図史料と考えられます。つまり、上飯田村のみならず郡部各地の旧村単位でも作成されたと考えてよいのですが、実際に飯田・下伊那地域でどの程度の村で地引絵図が作成され、またそれが現在も散逸せずに現存するかは明らかではありません。

今回確認された川路の地引絵図は、保管状態が良好であり、また現在の川路地区(江戸時代～明治期の旧下川路村の範囲)の全域をカバーするため、上飯田村の地引絵図と比較しうる貴重な絵図史料といえます。下書き段階のものが2枚含まれますが、清書されたものは全部で5枚です。一枚目は、「信濃国伊那郡下川路村田畑山林略絵図之一」と題字があり、それ以外は「其二」から「其五」と記載されています。段丘上部の山林や天竜川に沿った土地は灰色に塗られていますが、これは「荒地」を示す色であり、黄色と緑に塗られた「田畑」とは明確に区別されていました。川路の歴史的な農業景観を知るためのたいへん重要な史料であることは間違いなく、今後本格的な研究を進めたいと考えております。

(研究員 福村任生)



「信濃国伊那郡下川路村田畑山林略絵図之一」  
(旧川路村役場文書二次分)

# 飯田アカデミア2020第91講座

## 通勤電車の社会史－東京の通勤はなぜ「痛勤」なのか－

たかしま しゅういち

講師 **高嶋修一**さん

(青山学院大学経済学部教授)

会場 **飯田市役所 C棟3階会議室**

資料代 **500円 ※高校生以下無料**

※1 講義のみでもご参加いただけます。

**7月4日** 土

第1講 13:30～15:00

東京の近代化と都市交通機関の登場

第2講 15:20～16:50

市街電車の登場と限界

**7月5日** 日

第3講 10:00～11:30

「高速鉄道」の登場

第4講 13:00～14:30

都市計画と交通調整

感染症拡大防止対策のため、今回は、定員40名程度とさせていただきます。事前申込みが必要になりますので、ご希望の方は6月30日(火)までにお電話でお申込みください。(0265-53-4670)  
また、当日、お名前・ご連絡先をご記入いただきます。予めご了承ください。

### 講師より

日本の大都市では通勤が「痛勤」と言われるほどの大混雑が日常化しています。1日2時間を通勤に費やすとして12年勤めれば通勤時間はまる1年になり、一般的なサラリーマンは定年までに約3年を満員電車のなかで過ごす計算になります。これは18世紀に大西洋を渡った奴隷船よりも人口密度が高い空間で、当時の奴隷よりもはるかに長い時間を生きていることになります。なぜこのようなことになったのでしょうか。東京では20世紀初頭に市街電車が、続いて「高速鉄道」(省線電車や地下鉄、郊外私鉄)が登場し、やがてそれらは都市計画のなかに位置づけられました。しかし、設備投資は必ずしも十分に行われず、その不足は人びとの行動様式や物の考え方のコントロールで補われることになりました。それがよく表れていたのが戦時中の交通調整でしたが、基本的な特質は戦後の高度成長期にも引き継がれました。これは、近現代日本社会の一つの特質であったと言えます。

## 地域史研究集会中止のお知らせ

今年度の飯田市地域史研究集会では「暮らしのなかの景観－その歴史と継承」というテーマで準備を進めて参りましたが、飯田市が策定した感染症拡大予防対策に基き、今年度については開催を見送ることを決断いたしました。来年度へ持ち越しとなりますが、地域の日常生活の中にあるさまざまな歴史的景観の継承について、国際的視野に学びつつ議論することを企図しております。一年間の準備期間を有効活用し、飯田・下伊那各地のまちなみや歴史的建造物、景観史料の調査に取り組み、充実した展示企画も準備する予定ですのでご期待ください。

## 歴研ゼミ&ワークショップ 6月・7月の予定

会場: 歴史研究所 研修室

※満洲移民研究ゼミと近世史ゼミは県公民館にて開催します。



### 受講生募集!

スタッフとともに歴史を学んでみませんか。

### 満洲移民研究ゼミ

担当: 本島和人(調査研究員)  
齊藤俊江(調査研究員)

第104回 6月6日 / 第105回 7月4日  
(第1土曜日) 10:00～11:40

### 地域史ゼミ

担当: 太田仙一(研究員)

6月12日 / 7月10日  
(第2金曜日) 18:30～20:30

### 近世史ゼミ

担当: 羽田真也(研究員)

6月10日・24日 / 7月8日・22日  
(第2・第4水曜日) 18:30～20:30  
※6月10日は市役所C311会議室

### 建築史ゼミ

担当: 福村任生(研究員)

6月19日 / 7月17日  
(第3金曜日) 19:00～21:00

### 近現代史ゼミ

担当: 田中雅孝(特任研究員)

6月13日・27日 / 7月11日・25日  
(第2・第4土曜日) 10:00～11:40

### 思想史ワークショップ

市民の皆さんが自主的に学び合う場

6月3日・17日 / 7月1日・15日  
(第1・第3水曜日) 19:00～21:00

ゼミ・ワークショップの詳細・お申込みについては、歴史研究所までお問い合わせください。TEL: 0265-53-4670

新型コロナウイルス感染状況により、講座・ゼミ等を中止または延期することもあります。

アカデミア・ゼミにご参加いただく場合は必ずマスクをご着用ください。

開所時間: 午前9時～午後5時 休所日: 日曜日・月曜日・祝日・12月29日～1月3日